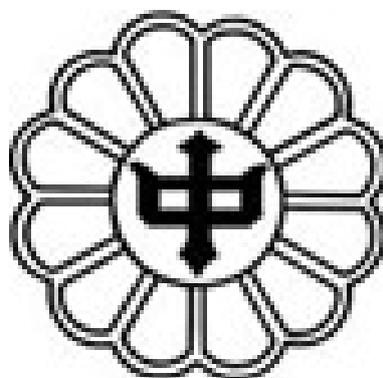


令和2年度

麴町の学習



千代田区立麴町中学校

目次

評価評定について	・・・・・・・・・・ P 1～2
国語科	・・・・・・・・・・ P 3～5
数学科	・・・・・・・・・・ P 6～8
社会科	・・・・・・・・・・ P 9～15
理科	・・・・・・・・・・ P 16～18
英語科	・・・・・・・・・・ P 19～21
音楽科	・・・・・・・・・・ P 22～24
美術科	・・・・・・・・・・ P 25～27
保健体育科	・・・・・・・・・・ P 28～30
技術・家庭科（技術分野）	・・・・・・・・・・ P 31～33
技術・家庭科（家庭分野）	・・・・・・・・・・ P 34～36

麴町中学校 評価評定について

令和2年度 教務部

1 観点別評価と評定

(1) 観点別評価

- 各教科は4つ（国語のみ5つ）の観点別に「S」～「C」の4段階で評価をつけます。
- 観点は各教科で異なりますが、「知識・理解」だけでなく、「関心・意欲・態度」や「思考・判断・表現」といった観点も含まれます。

例) 理科… ①自然事象への関心・意欲・態度 ②科学的な思考・表現
③観察・実験の技能 ④自然事象についての知識・理解

・評価の基準

- S… 「十分満足できる」（達成率90%以上）
- A… 「満足できる」（達成率80%以上）
- B… 「おおむね満足できる」（達成率50%以上）
- C… 「努力を要する」（達成率50%未満）

(2) 評定

- 各教科の観点別評価を総計して、「1」～「5」の5段階で評定をつけます。
- つまり、テストの得点だけで評定がつけられるわけではありません。

・評定の基準

- 5… 達成率90%以上
- 4… 達成率80%以上
- 3… 達成率50%以上
- 2… 達成率20%以上
- 1… 達成率20%未満

通知表の記載例
（*は学年全体に対してその観点の評価をつけなかった場合）

教科	観 点	評 定
国語	国語への関心・意欲・態度	B
	話す・聞く能力	C
	書く能力	※
	読む能力	B
	言語についての知識・理解・技能	C
社会	社会的な関心・意欲・態度	A
	社会的な思考・判断・表現	B
	資料活用技能	A
	社会的な事象についての知識・理解	A

2 評価・評定のつけ方

- ①教科ごとに定められた活動や課題、単元テストなどを評価します。
例) 授業中の学習活動の評価、提出物、発表活動、単元テストなど
- ②観点別に総計し、各教科の設定した基準に対しての達成率でS～Cの評価を決定します。
- ③観点別の評価を総計し、達成率によって「1」～「5」の5段階で評定を算出します。

3 想定される評価と評定の例

- 例①「評価に「B」が混ざっていても評定「5」がつく場合もある」例
 例②「観点別評価がすべて「S」と「A」であっても、評定が「5」にならない場合もある」例
 例③「単元テストの点数が満点であっても評定が「3」になる場合もある」例

※表の例は「思考・判断・表現」、「知識・理解」を測定する問題が単元テストに含まれていた想定

観点	例①		例②		例③	
	達成率	評価	達成率	評価	達成率	評価
関心・意欲・態度	95%	S	90%	S	50%	B
思考・判断・表現	95%	S	90%	S	90%	S
技能	95%	S	90%	S	40%	C
知識・理解	75%	B	80%	A	100%	S
合計達成率	90%	➡ 評定「5」	87.5%	➡ 評定「4」	70%	➡ 評定「3」

4 目指す生徒像

本校の教育目標の達成を実現し、国際人として考え行動できる生徒を育成するために、次の態度を身に付けることを目指しています。

- 様々な場面で言葉や技能を使いこなす
- 信頼できる知識や情報を収集し、有効に活用する
- 感情をコントロールする
- 見通しを持って計画的に行動する
- ルールを踏まえて、建設的に主張する
- 他者の立場で物事を考える
- 目標の合意形成を図り、他者と協働する
- 意見の対立や理解の相違を解決する

日常の様々な活動で各生徒のよさを発見し、上記8項目の中で、特に優れていると思われる項目や、努力していると思われる項目に○をつけています。○がついていないので、達成されていないということではありません。

5 配付される通知表

全学年とも積み上げのみが配付されます。

6 配付される通知表の内容

- ・ 1学期の通知表配付（全学年9月18日配布）
「学習の記録」「1学期の出欠席」「前期の委員会・係・部活動など」
- ・ 2学期の通知表配付（3年：11月27日配布、1・2年：12月25日配布）
「学習の記録」「1、2学期の出欠席」「後期の委員会・係など」
- ・ 3学期の通知表配付（3年：3月18日配布、1・2年：3月25日配布）
「学習の記録」「年間の出欠席」「目指す生徒像」「道徳の評価」
「総合的な学習の時間」「行動の記録」

※ 再テストについては、「知識・理解」以外の観点からも出題される場合もあります。また、再テストの点数が評価に反映されます。なお、再テストの実施は各单元1回のみとします。

※ ノートは自分の学習に役立てるために書くものなので、評価はしません。

※ 各観点の評価内容は教科によって異なりますので、「麴町の学習」よく読んで下さい。

よろしくお願ひします。

【学習計画】

	単元	主な学習内容
1学期	1 絆—家族の中で 発見する読み 話す・聞く 漢字を見抜く 文法の学習 2 生命—命の鎖 書く 漢字を見抜く 文法の学習 話す・聞く 書写	<ul style="list-style-type: none"> ・作品の言葉について想像し、自由に交流する。・登場人物の言動を吟味し気持ちを想像する。 ・『起承転結』が視点を切り替えることで認識を深める方法であることを理解する。 ・『聞き取りメモ』の取り方を考える。・スピーチの仕方を身に付ける。 ・『文』と『字』とは何かを知り、漢字を見抜く練習で確かめる。 ・文節、文節と文節の関係、連文節について理解する。 ・文章の構成を捉え要旨をまとめる。・表現の工夫や効果を考える。・体験を吟味する。 ・ブックカバーを作る。 ・声符とは何かを知る。 ・品詞分類の手続きを知る。 ・字形を整えて楷書で書く。
2学期	読書 3 群像—出会いと発見 話す・聞く 漢字を見抜く 文法の学習 表現に向かう読み 4 伝統—時を超えて 古典読書 書く 漢字を見抜く 文法の学習 書写（毛筆・硬筆）	<ul style="list-style-type: none"> ・小説の面白さを多角的に捉える。・小説の主題について考える。 ・筆者の考えとエピソードとの関係を理解する。・モチーフを吟味して主題を捉える。 ・ミライ探求フィールドワークを経て、紹介プレゼンテーションを行う。 ・お礼状を書く。 ・部・部首・部首名とは何かを知る。 ・名詞・代名詞の種類と特徴を知る。 ・比喩表現を吟味して主題を説明する。 ・古典読解の構えを作る。・内容を理解して音読し、古典特有のリズムを味わう。 ・語り手のものの見方を捉える。・歴史的仮名遣いについて理解する。 ・漢文特有のリズムを味わう。・故事成語の意味・用法・背景について調べる。 ・新聞の役割と特徴について考える。・身近な出来事を報道文で伝える。 ・書体について知る。・副詞・連体詞について知る。 ・楷書と行書で仮名を書く。書き初めの練習をする。
3学期	5 世界—関係の中で 漢字を見抜く 文法の学習 情報と表現 読書 学習を振り返る	<ul style="list-style-type: none"> ・回想表現の特徴や意義を考える。・表現に即して主人公の気持ちの変化を捉える。 ・語りの構造に着目して読解を広げる。 ・新字体・簡易慣用字体について知る。 ・接続詞、感動詞の種類について知る。 ・メディアによる表現効果の違いについて考える。 ・教材から読み広げる方法を理解する。 ・1年間の国語の授業を振り返る。・百人一首大会

【評価の観点】

(1) 国語への関心・意欲・態度	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、国語に対する認識を深め、話したり聞いたり書いたりして考えをまとめ、読書を通してものの見方や考え方を広げようとする。
(2) 話す・聞く能力	目的や場面に応じ、構成を工夫して話したり、意図を考えながら聞いたり、話し合ったりしている。
(3) 書く能力	目的や意図に応じて構成を考え、自分の考えや気持ちを、根拠を明確にして文章に書いている。
(4) 読む能力	目的や意図に応じ、内容や要旨を的確にとらえて、自分のものの見方や考え方を広くしている。
(5) 言語についての知識・理解・技能	伝統的な言語文化にふれ、言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し使うとともに、文字を楷書で書き、漢字の行書の基礎的な書き方を理解して書いている。

【評価の特色・方法・機会等】

(1) 評価の特色

国語の学習は全ての教科の基礎になるものなので、基本的な「読む・書く・話す・聞く」力をまんべんなくつけることが大切である。そのため、国語の学習範囲は、言語理解・漢字・文章読解・作文・スピーチ・創作等、多岐にわたっている。評価においては、各観点に従って行う。また、授業内で取り組むワークシートや発表の姿勢も関心・意欲・態度の評価に含まれる。

(2) 評価の方法・機会等

以下の点をもとに、総合的に評価する

- ① 日常の学習活動の取り組み、態度など ② 単元テストや再テストの結果 ③ 授業で使用したワークシート
④ 提出課題・発表 ⑥ 学習内容によっては、生徒自身の自己評価や相互評価

【学習計画】

	単元	主な学習内容
1 学期	1 絆—仲間と共に 発見する読み 話す・聞く 語を見抜く 文法の学習 2 生命—命の交差 書く 語を見抜く 文法の学習 情報と表現 書写 (硬筆)	<ul style="list-style-type: none"> ・特徴的な文末表現を抜き出し、その効果を考える。 ・キーワードから筆者の主張を把握する。 ・「導入・展開・終結」が思考の流れを明確にする構成であることを理解する。 ・漢字の音訓などについて理解する。 ・動詞・形容詞・形容動詞について理解する。 ・表現の細部を吟味して理解する。 ・作品の主題を捉え文章に書く。 ・一つの表現に込められた重層的な意味を捉える。 ・短歌表現の工夫を捉える。 ・熟字訓、湯桶読み、重箱読みについて理解する。 ・助動詞の用法について理解する。 ・編集の意図や効果について話し合う。 ・硬筆で文字を整えて書く。 ・丁寧に視写する。
2 学期	読書 3 群像—発見と行動 発見する読み 話す・聞く 語を見抜く 表現に向かう読み 4 伝統—時の中で 古典読書 活動を考える 書く 語を見抜く 文法の学習 言葉と生活・言葉と文化 書写 (毛筆・硬筆)	<ul style="list-style-type: none"> ・小説の見方・読み方を学ぶ。 ・人物像や内容を捉え朗読する。 ・視点を変えてできごとや主題を捉える。 ・作品のテーマに即して伏線を見付ける。 ・ディベートの手順を知り、ディベートを実践する。 ・同音異字、同訓異字、同音異義語について知る。 ・段落相互の関係に着目して筆者が伝えたいことをまとめる。 ・言語生活を振り返り「言葉の力」捉える。 ・場面ごとの登場人物の心情を想像して朗読する。 ・交流を通じて「論語」を理解する。 ・漢文の訓読に親しむ。 ・クエストエデュケーションを通して、他者に意見を効果的に伝える方法を考える。 ・読み手に分かるように組み立てて意見文を書く。 ・熟語の構成を理解する。 ・助詞の働きについて理解する。 ・話し言葉と書き言葉について理解する。 ・楷書と行書を書く。 ・書き初めの練習をする。
3 学期	5 世界—状況の中で 発見する読み 語を見抜く 文法の学習 情報と表現 読書 学習を振り返る	<ul style="list-style-type: none"> ・写真と言葉の表現の違い、表現力の違いについて、交流する。 ・深く豊かな人間関係を築くために「記憶」が重要であることを小説から読み取る。 ・特別な分野で使われている語について理解する。 ・文の成分や文章の組み立てについて知る。 ・手紙とメールについて、形式や内容など様々な観点から比較し、話し合う。 ・芸術や歴史を素材にした文章を読んで感じたことを交流する。 ・1年間の学習を振り返り、次年度へつなげる。 ・百人一首大会

【評価の観点】

(1) 国語への関心・意欲・態度	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、国語に対する認識を深め、話したりして考えを広げ、読書を生活に役立てようとする。
(2) 話す・聞く能力	目的や場面に応じ、立場や考えの違いを踏まえて話したり、考えを比べながら聞いたり、相手の立場を尊重して話し合ったりしている。
(3) 書く能力	目的や意図に応じ、構成を工夫し、伝えたいことが効果的に伝わるように文章を書いている。
(4) 読む能力	目的や意図に応じ、内容や表現の仕方に注意して文章を読み、知識や体験と関連付けて自分の考えを持っている。
(5) 言語についての知識・理解・技能	伝統的な言語文化を楽しみ、言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し使うとともに、漢字の行書とそれに調和した仮名を書き、楷書又は行書を選んで書いている。

【評価の特色・方法・機会等】

(1) 評価の特色

国語科の目標である、国語を適切に表現する能力や、言語感覚を豊かにすることなどの力を養うために、発表や文章を書く時間を授業内で適宜取り入れ、評価をしていく。

評価においては、日々の授業の積み重ねと、主体的な学習態度を重視していく。よって、様々な発表の姿勢や授業内で使用したワークシートに関心・意欲・態度等に含む。

(2) 評価の方法・機会等

以下の点をもとに、総合的に評価する。

- ① 日常の学習活動の取り組み、態度など ② 単元テストや再テストの結果 ③ 授業で使用したワークシート
④ 提出課題・発表 ⑤ 学習内容によっては、生徒自身の自己評価や相互評価

【学習計画】

	単元	主な学習内容
1 学期	1 絆—社会に向けて 発見する読み 話す・聞く 文字を見抜く 2 生命—命の共鳴 書く 文字を見抜く 情報と表現 書写（硬筆）	<ul style="list-style-type: none"> ・経験とそれについての思索を読み分けて、文章展開の特徴を捉える。 ・キーワードから筆者の思いや考えを捉える。 ・ストーリーをプロットに書き直し、読解を深める。 ・現代文暗唱コンテストを開き、暗唱スピーチを行う。 ・表音文字と表意文字について理解する。 ・モチーフ（「手」や「指」）に込められた意味や心理を捉える。 ・歴史に翻弄される生を考える。 ・批評する言葉を選び、批評文を書く。 ・常用漢字表について理解する。 ・文体によって情報の伝わり方が変わってくることを知る。 ・字を速く美しく正確に書くように意識する。
2 学期	読書 3 群像—未来への問い 発見する読み 文字を見抜く 文法の学習 表現に向かう読み 4 伝統—今に向かって 古典読書 書く 文字を見抜く 言葉と生活・言葉と文化 書写	<ul style="list-style-type: none"> ・語り手を意識して読みの幅を広げる。 ・論理展開を捉えて内容を理解し、再認識したことを文章にまとめる。 ・表現されていないことを見つめ、小説表現を読み深める。 ・日本語の拍や点字について理解する。 ・文章の構造・段落どうしの関係について知る。 ・物語から想像したことをもとに、作者と対話する。 ・古典に向かおうとする読みの構えを作る。 ・さまざまな言語文化の継承のあり方を理解する。 ・今の自分を生かしているものを見つめ、文章にまとめる。 ・平仮名・片仮名についての理解を深める。 ・和語・漢語・外来語の由来について理解する。 ・楷書と行書を毛筆で書く。 ・書き初めの練習をする。
3 学期	5 世界—世代を超えて 発見する読み 文字を見抜く 文法の学習 情報と表現 読書 学習を振り返る	<ul style="list-style-type: none"> ・象徴表現を理解する。 ・視点を変えて作品を捉え直し、読解を深める。 ・詩に込められた復興への思いを読み取り、交流する。 ・指文字・手話の特徴を理解し、言語について考えを深める。 ・指示語・接続語についての知識をまとめる。 ・言葉の力、比喩の力について考える。 ・説明文、評論文から読書を広げる。 ・3年間の国語の授業を振り返る。 ・百人一首大会

【評価の観点】

(1) 国語への関心・意欲・態度	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、国語に対する認識を深め、話したり聞いたり書いたりして考えを深め、読書を通して自己を向上させようとする。
(2) 話す・聞く能力	相手に合わせて話したり、表現の工夫を評価して聞いたり、課題の解決に向けて話し合ったりしている。
(3) 書く能力	目的や意図に応じ、文章の形態を選択し、論理の展開を工夫して説得力のある文章を書いている。
(4) 読む能力	文章の展開や表現の仕方などを評価しながら読み、人間、社会、自然などについて自分の意見をもっている。
(5) 言語についての知識・理解・技能	伝統的な言語文化に親しんだり、言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し使ったりするとともに、身の回りの文字に関心をもち、効果的に文字を書いている。

【評価の特色・方法・機会等】

(1) 評価の特色

国語科の目標である、国語を適切に表現する能力（言葉で理解し、言葉で表現する力）や、言語感覚を豊かにすることなどは、短期間でできるわけではない。日々の学習がどれだけ積み上げられているか、3年生では特にそれが問われることになる。したがって、文章や交流などで、さまざまに表現する時間を設定する。授業や課題に対する意欲的な取り組みが重要であるため、授業内で取り組むワークシートや交流の姿勢に関心・意欲・態度等を含む。

(2) 評価の方法・機会等

以下の点をもとに、総合的に評価する。

- ① 日常の学習活動の取り組み、態度など ② 単元テストや再テストの結果 ③ 授業で使用したワークシート
④ 提出課題・発表 ⑤ 学習内容によっては、生徒自身の自己評価や相互評価

【学習計画】

	単元	主な学習内容
1 学期	正の数と負の数 文字と式	正の数と負の数 加法と減法 乗法と除法 いろいろな計算 素因数分解 文字と式 文字式の計算
2 学期	1次方程式 比例と反比例 平面図形	1次方程式 1次方程式の利用 比例 反比例 比例と反比例の利用 平面図形 作図 円とおうぎ形
3 学期	空間図形 資料の整理とその活用	空間図形 立体の表面積と体積 資料の整理とその活用

※ タブレット用数学教材 Qubena を用いて個別学習を行うため、生徒によっては進度が早まる場合があります。

【評価の観点】

(1) 数学への 関心・意欲・態度	様々な事象を数量や図形としてとらえたり、それらの性質や関係を見いだしたりするなど、数学的に考え表現することに関心をもち、意欲的に数学を問題の解決に活用して考えたり判断しようとする。
(2) 数学的な見方・考え方	数量や図形などについての基礎的・基本的な知識及び技能を活用しながら、事象を見通しをもって論理的に考察し表現したり、その過程を振り返って考えを深めたりするなど、数学的な見方や考え方を身に付けている。
(3) 数学的な技能	正の数と負の数の四則計算ができ、数量の関係や法則を方程式などを用いて表現し処理したり、基本的な図形の作図や図形の計量をしたり、関数関係を的確に表現したり、資料を整理したりするなど、技能を身に付けている。
(4) 数量・図形についての 知識・理解	正の数と負の数、文字を用いることの必要性和意味、一元一次方程式、平面図形についての性質や関係、空間における図形の位置関係、関数関係や比例・反比例、ヒストグラムや代表値などを理解し、知識を身に付けている。

【評価の特色・方法・機会等】

(1) 評価の特色

これらの観点を、単元テストや再テストの結果だけでなく、授業の様子などを踏まえ、総合的に評価する。

(2) 評価の方法・機会等

- ① 授業中の態度や発言等
- ② 単元テスト 再テスト等
- ③ 単元テストや再テストは、「数学的な見方や考え方」、「数学的な技能」、「数量・図形についての知識・理解」の3つの観点で行う。

【学習計画】

	単元	主な学習内容
1 学期	式の計算 連立方程式 一次関数	式の計算 文字式の利用 連立方程式 連立方程式の利用 一次関数
2 学期	一次関数 図形の性質と合同 三角形と四角形	一次関数と方程式 一次関数の利用 平行線と角 三角形の合同 証明 三角形
3 学期	三角形と四角形 確率 1年間のまとめ	四角形 確率

※ タブレット用数学教材 Qubena を用いて個別学習を行うため、生徒によっては進度が早まる場合があります。

【評価の観点】

(1) 数学への 関心・意欲・態度	様々な事象を数量や図形としてとらえたり、それらの性質や関係を見いだしたりするなど、数学的に考え表現することに関心を持ち、意欲的に数学を問題の解決に活用して考えたり判断したりしようとする。
(2) 数学的な見方や考え方	数量や図形などについての基礎的・基本的な知識及び技能を活用しながら、事象を数学的な推論の方法を用いて論理的に考察し表現したり、その過程を振り返って考えを深めたりするなど、数学的な見方や考え方を身に付けている。
(3) 数学的な技能	文字を用いた四則計算ができ、数量の関係や法則を方程式などを用いて表現し処理したり、図形の性質について簡潔に表現したり、関数関係を的確に表現したり、確率を求めたりするなど、技能を身に付けている。
(4) 数量や図形など についての知識・理解	文字のはたらき、連立二元一次方程式、平面図形の性質、図形の証明の必要性と意味などを理解し、知識を身に付けている。

【評価の特色・方法・機会等】

(1) 評価の特色

これらの観点を、単元テストや再テストの結果だけでなく、授業の様子などを踏まえ、総合的に評価する。

(2) 評価の方法・機会等

- ① 授業中の態度や発言等
- ② 単元テスト 再テスト等
- ③ 単元テストや再テストは、「数学的な見方や考え方」、「数学的な技能」、「数量・図形についての知識・理解」の3つの観点で行う。

【学習計画】

	単元	主な学習内容
1 学 期	式の計算	多項式の計算 因数分解 式の計算の利用 素因数分解
	平方根	平方根 根号を含む式の計算
	2次方程式	2次方程式
2 学 期	2次方程式	2次方程式の利用
	関数 $y=ax^2$	関数 $y=ax^2$ 関数 $y=ax^2$ の利用
	相似	相似な図形 平行線と線分の比 面積の比、体積の比
3 学 期	円	円
	三平方の定理	三平方の定理 三平方の定理の利用
	標本調査 まとめ	母集団と標本 まとめ

※ タブレット用数学教材 Qubena を用いて個別学習を行うため、生徒によっては進度が早まることがあります。

【評価の観点】

(1) 数学的への 関心・意欲・態度	様々な事象を数量や図形としてとらえたり、それらの性質や関係を見いだしたりするなど、数学的に考え表現することに関心を持ち、意欲的に数学を問題の解決に活用して考えたり判断しようとする。
(2) 数学的な見方や考え方	数量や図形などについての基礎的・基本的な知識及び技能を活用しながら、事象に潜む関係や法則を用いて論理的に考察し表現したり、その過程を振り返って考えを深めたりするなど、数学的な見方や考え方を身に付けている。
(3) 数学的な技能	平方根を含む式の計算ができ、数量の関係や法則を方程式などを用いて表現し処理したり、図形の性質について簡潔に表現したり、関数関係を的確に表現したり、標本を抽出したりするなど、技能を身に付けている。
(4) 数量や図形など についての知識・理解	数の平方根の必要性と意味、式の変形の意味とはたらき、二次方程式、図形の相似の意味や円周角と中心角の関係、三平方の定理の意味などを理解し、知識を身に付けている。

【評価の特色・方法・機会等】

(1) 評価の特色

これらの観点を、単元テストや再テストの結果だけでなく、授業の様子などを踏まえ、総合的に評価する。

(2) 評価の方法・機会等

- ① 授業中の態度や発言等
- ② 単元テスト 再テスト等
- ③ 単元テストや再テストは、「数学的な見方や考え方」、「数学的な技能」、「数量・図形についての知識・理解」の3つの観点で行う。

【学習計画】

	単元	主な学習内容
1 学期	世界の姿 世界各地の人々の生活と環境	地球をながめて、いろいろな国の名と位置 緯度と経度 地球儀と世界地図の違い 世界の略地図 世界のさまざまな生活と環境 暑い地域・乾燥した地域の暮らし 温暖な地域、寒い地域、高地の暮らし 世界の衣食住とその変化、宗教と生活とのかかわり
2 学期	世界の諸地域	アジア州 ヨーロッパ州 アフリカ州
3 学期		北アメリカ州

【評価の観点】

(1) 社会的事象への関心・意欲・態度	地理的事象に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、広い視野に立って我が国の国土の特色について認識を養おうとする。
(2) 社会的な思考・判断・表現	地理的事象から、課題を見だし、日本や世界の地域的特色を地域の規模に応じて環境条件や人々の営みなどと関連づけて多面的・多角的に考察し、公正に判断する。
(3) 資料活用の技能	地図や統計、映像など地域に関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して活用するとともに、追究し考察した過程や結果を地図化したり、報告書などにまとめたり、発表や討論などを行ったりする。
(4) 社会的事象についての知識・理解	世界と日本の地域構成、地域の規模に応じてとらえた地域的特色、世界と比べてみた日本の地域的特色などを理解し、その知識を身に付けている。

【評価の特色・方法・機会等】

(1) 評価の特色

課題を設定して考えることを促し、その課題に対して生徒が正対しているか、意欲的に追究しているかを見取る。考えた結果としての表現内容から、思考・判断・表現の力を深められているかを評価していく。また、その思考・判断・表現を支える知識や技能がきちんと身に付いているかについても評価していく。

(2) 評価の方法・機会等

- ① ワークシートなどの記述内容。
- ② 生徒の授業内の態度や発言。
- ③ 単元テスト等（単元により見取る観点は異なる場合があります。再テストも同様です。詳細はその都度伝えます）。

【学習計画】

	単元	主な学習内容
1 学期	歴史のとらえ方 古代までの日本	歴史学習のはじめに 文明のおこりと日本の成り立ち 古代国家の歩みと東アジア世界
2 学期	中世の日本	武士の台頭と鎌倉幕府 東アジア世界とのかかわりと社会の変動
3 学期	近世の日本	ヨーロッパ人との出会いと全国統一 江戸幕府の成立と鎖国 産業の発達と幕府政治の動き

【評価の観点】

(1) 社会的事象への関心・ 意欲・態度	歴史的事象に対する関心を深め、それを意欲的に追究し、広い視野に立って我が国の文化と伝統について考え国民としての自覚をもとうとする。
(2) 社会的な思考・判断・表現	歴史的事象から、課題を見出し、我が国の歴史の大きな流れと各時代の特色などを多面的・多角的に考察し、公正に判断する。
(3) 資料活用の技能	年表や歴史地図、映像など歴史的に関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して活用するとともに、追究し考察した過程や結果を年表や報告書などにまとめたり、発表や討論を行ったりする。
(4) 社会的事象についての 知識・理解	我が国の歴史の大きな流れと各時代の特色などを我が国の歴史と関連ある世界の歴史を背景に理解し、その知識を身に付けている。

【評価の特色・方法・機会等】

(1) 評価の特色

課題を設定して考えることを促し、その課題に対して生徒が正対しているか、意欲的に追究しているかを見取る。考えた結果としての表現内容から、思考・判断・表現の力を深められているかを評価していく。また、その思考・判断・表現を支える知識や技能がきちんと身に付いているかについても評価していく。

(2) 評価の方法・機会等

- ① ワークシートなどの記述内容。
- ② 生徒の授業内の態度や発言。
- ③ 単元テスト等（単元により見取る観点は異なる場合があります。再テストも同様です。詳細はその都度伝えます）。

【学習計画】

	単元	主な学習内容
1 学期	世界の諸地域 身近な地域の調査	北アメリカ州 南アメリカ州 オセアニア州 地域を調べるテーマを決めよう 仮説を立てて調べる方法を考えよう 実際に調査してみよう
2 学期	日本の姿 世界と比べた日本の地域的特色 日本の諸地域	世界の中での日本の位置、日本の範囲 時差でとらえる日本の位置 都道府県と地域区分、略地図 自然環境の特色 人口の特色 資源や産業の特色 地域間の結びつきの特色 九州地方 中国・四国地方
3 学期		近畿地方 中部地方 関東地方 東北地方 北海道地方

【評価の観点】

(1) 社会的事象への関心・意欲・態度	地理的事象に対する関心を深め、それを意欲的に追究し、広い視野に立って我が国の国土の特色について認識を養おうとする。
(2) 社会的な思考・判断・表現	地理的事象から、課題を見出し、日本や世界の地域的特色を地域の規模に応じて環境条件や人々の営みなどと関連づけて多面的・多角的に考察し、公正に判断する。
(3) 資料活用の技能	地図や統計、映像など地域に関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して活用するとともに、追究し考察した過程や結果を地図化したり、報告書などにまとめたり、発表や討論などを行ったりする。
(4) 社会的事象についての知識・理解	世界と日本の地域構成、地域の規模に応じてとらえた地域的特色、世界と比べてみた日本の地域的特色などを理解し、その知識を身に付けている。

【評価の特色・方法・機会等】

(1) 評価の特色

課題を設定して考えることを促し、その課題に対して生徒が正対しているか、意欲的に追究しているかを見取る。考えた結果としての表現内容から、思考・判断・表現の力を深められているかを評価していく。また、その思考・判断・表現を支える知識や技能がきちんと身に付いているかについても評価していく。

(2) 評価の方法・機会等

- ① ワークシートなどの記述内容。
- ② 生徒の授業内の態度や発言。
- ③ 単元テスト等（単元により見取る観点は異なる場合があります。再テストも同様です。詳細はその都度伝えます）。

【学習計画】

	単元	主な学習内容
1学期	近世の日本	江戸幕府の成立と鎖国 産業の発達と幕府政治の動き
2学	開国と近代日本の歩み	欧米の進出と日本の開国 明治維新
3学期		日清・日露戦争と近代産業

【評価の観点】

(1) 社会的事象への関心・意欲・態度	歴史的事象に対する関心を深め、それを意欲的に追究し、広い視野に立って我が国の文化と伝統について考え国民としての自覚をもとうとする。
(2) 社会的な思考・判断・表現	歴史的事象から、課題を見出し、我が国の歴史の大きな流れと各時代の特色などを多面的・多角的に考察し、公正に判断する。
(3) 資料活用の技能	年表や歴史地図、映像など歴史的に関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して活用するとともに、追究し考察した過程や結果を年表や報告書などにまとめたり、発表や討論を行ったりする。
(4) 社会的事象についての知識・理解	我が国の歴史の大きな流れと各時代の特色などを我が国の歴史と関連ある世界の歴史を背景に理解し、その知識を身に付けている。

【評価の特色・方法・機会等】

(1) 評価の特色

課題を設定して考えることを促し、その課題に対して生徒が正対しているか、意欲的に追究しているかを見取る。考えた結果としての表現内容から、思考・判断・表現の力を深められているかを評価していく。また、その思考・判断・表現を支える知識や技能がきちんと身に付いているかについても評価していく。

(2) 評価の方法・機会等

- ① ワークシートなどの記述内容。
- ② 生徒の授業内の態度や発言。
- ③ 単元テスト等（単元により見取る観点は異なる場合があります。再テストも同様です。詳細はその都度伝えます）。

【学習計画】

	単元	主な学習内容
1 学期	日本のさまざまな地域	東北地方、北海道地方
	開国と近代日本の歩み	明治維新 日清・日露戦争と近代産業
	二度の世界大戦と日本	第一次世界大戦と日本 世界恐慌と日本の中国侵略 第二次世界大戦と日本
	現代の日本と世界	戦後日本の成長と国際関係 新たな時代の日本と世界

【評価の観点】

(1) 社会的事象への関心・意欲・態度	現代の社会的事象に対する関心を深め、それを意欲的に追究し、広い視野に立ってより良い社会を考え公民としての自覚をもって責任を果たそうとする。
(2) 社会的な思考・判断・表現	現代の社会的事象から、課題を見出し、社会的事象の意義や役割、相互の関連などを多面的・多角的に考察し、様々な考え方をふまえて公正に判断する。
(3) 資料活用の技能	統計や新聞、映像など現代の社会的事象に関する様々な資料を基に、有用な情報を選び取り、追究し考察した過程や結果をまとめたりする。
(4) 社会的事象についての知識・理解	現代の社会生活及び政治や経済の基本的な考え方、社会的事象の意義や役割、相互の関連などを理解し、その知識を身に付けている。

【評価の特色・方法・機会等】

(1) 評価の特色

課題を設定して考えることを促し、その課題に対して生徒が正対しているか、意欲的に追究しているかを見取る。考えた結果としての表現内容から、思考・判断・表現の力を深められているかを評価していく。また、その思考・判断・表現を支える知識や技能がきちんと身に付いているかについても評価していく。

(2) 評価の方法・機会等

- ① ワークシートなどの記述内容。
- ② 生徒の授業内の態度や発言。
- ③ 単元テスト等（単元により見取る観点は異なる場合があります。再テストも同様です。詳細はその都度伝えます）。

【学習計画】

	単元	主な学習内容
1 学期	現代社会と私たちの生活	現代社会の特色と私たち 私たちの生活と文化
2 学期	個人の尊重と日本国憲法 私たちの暮らしと経済	人権と日本国憲法 消費生活と経済 生産と労働 価格の働きと金融
3 学期	地球社会と私たち よりよい社会をめざして	国際社会のしくみ 持続可能な社会をめざして

【学習計画】

	単元	主な学習内容
2 学期	現代社会と私たちの生活	現代社会の見方・考え方
	個人の尊重と日本国憲法	人権と共生社会 これからの人権保障
	現代の民主政治と社会	現代の民主政治 国の政治のしくみ 地方自治と私たち
	私たちの暮らしと経済	政府の役割と国民の福祉 これからの経済と社会
3 学期	地球社会と私たち よりよい社会をめざして	さまざまな国際問題 これからの地球社会と日本 持続可能な社会をめざして

【評価の観点】

(1) 社会的事象への関心・意欲・態度	現代の社会的事象に対する関心を深め、それを意欲的に追究し、広い視野に立ってより良い社会を考え公民としての自覚をもって責任を果たそうとする。
(2) 社会的な思考・判断・表現	現代の社会的事象から、課題を見出し、社会的事象の意義や役割、相互の関連などを多面的・多角的に考察し、様々な考え方をふまえ公正に判断する。
(3) 資料活用の技能	統計や新聞、映像など現代の社会的事象に関する様々な資料を基に、有用な情報を選び取り、追究し考察した過程や結果をまとめたりする。
(4) 社会的事象についての知識・理解	現代の社会生活及び政治や経済の基本的な考え方、社会的事象の意義や役割、相互の関連などを理解し、その知識を身に付けている。

【評価の特色・方法・機会等】

(1) 評価の特色

課題を設定して考えることを促し、その課題に対して生徒が正対しているか、意欲的に追究しているかを見取る。考えた結果としての表現内容から、思考・判断・表現の力を深められているかを評価していく。また、その思考・判断・表現を支える知識や技能がきちんと身に付いているかについても評価していく。

(2) 評価の方法・機会等

- ① ワークシートなどの記述内容。
- ② 生徒の授業内の態度や発言。
- ③ 単元テスト等（単元により見取る観点は異なる場合があります。再テストも同様です。詳細はその都度伝えます）。

【学習計画】

	単元	主な学習内容	単元	主な学習内容
1 学 期	1 植物の世界	身近な生物を観察しよう 1 花のつくりとはたらき 2 葉、茎、根のつくりとはたらき 3 植物の分類	2 身のまわりの物質	1 身のまわりの物質とその性質 2 気体の性質 3 水溶液の性質
2 学 期				4 物質の姿と状態変化 1 光の世界 2 音の世界 3 力の世界
3 学 期	4 大地の変化	3 地層から読みとる大地の変化	4 大地の変化	1 火をふく大地 2 動き続ける大地

【評価の観点】

	自然事象への関心・意欲・態度	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての知識・理解
第1分野 ・物理 ・化学	物質やエネルギーに関する事物・現象に進んでかかわり、それらを科学的に探求するとともに、事象を人間生活とのかかわりでみようとする。	物質やエネルギーに関する事物・現象の中に問題を見だし、目的意識をもって観察、実験などを行い、事象や結果を分析して解釈し、表現している。	物質やエネルギーに関する事物・現象についての観察、実験の基本操作を習得するとともに、観察、実験の計画的な実施、結果の記録や整理など、事象を科学的に探求する技能の基礎を身に付けている。	観察や実験などを通して、物質やエネルギーに関する事物・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。
第2分野 ・生物 ・地学	生物とそれを取り巻く自然の事物・現象に進んでかかわり、それらを科学的に探求するとともに、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与しようとする。	生物とそれを取り巻く自然の事物・現象の中に問題を見だし、目的意識をもって観察、実験などを行い、事象や結果を分析して解釈し、表現している。	生物とそれを取り巻く自然の事物・現象に関する観察、実験の基本操作を習得するとともに、観察、実験の計画的な実施、結果の記録や整理など、事象を科学的に探求する技能の基礎を身に付けている。	観察や実験などを通して、生物とそれを取り巻く自然の事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。

【授業と評価の特色・評価の方法等】

(1) 授業と評価の特色

自然の事物・現象に進んでかかわり、目的意識をもって観察、実験などをおこなうことで、科学的に探究する能力の基礎と態度を育て、自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な見方や考え方を養うことが、理科教育の目標である。日常では、科学の時事問題にも注目し、現代社会と理科授業が関連しあうように、授業を進めている。評価においては、上表の4観点を客観的に測定し、評価評定を行っている。

(2) 評価の方法・機会等

- ① 日常の学習および観察・実験の際の取り組みの様子
- ② 観察・実験プリントや、ワークシートなど
 - ※ 模範解答や他人の答えの丸写しではなく、自分のためになる学習をして、提出することが大切である。
- ③ 単元テスト
 - ・テストについては1週間ほど前に範囲を提示する。
 - ・再テストが可能な観点については再テストを行う。行う観点など詳細はその都度提示する。
 - ※ 章末テストや単元末テストの前は章末問題、単元末問題、ノートやワークシートを見直して十分家庭学習すること。

【学習計画】

	単元	主な学習内容	単元	主な学習内容
1 学期	4 大地の 変化	3 地層から読み取る大地の変化	2 動物の 生活と生物 の変遷	1 生物と細胞 2 動物のからだの つくりとはたらき
	1 化学変化 と原子・分子	1 物質のなり立ち 2 物質どうしの化学変化		2 動物のからだの つくりとはたらき
2 学期	1 化学変化 と原子・分子	2 物質どうしの化学変化 3 酸素がかかわる化学変化 4 化学変化と物質の質量 5 化学変化とその利用	2 動物の 生活と生物 の変遷	2 動物のからだの つくりとはたらき 3 動物の分類 4 生物の変遷と進化
	4 電流の 世界	1 静電気と電流 2 電流の性質 3 電流と磁界		
3 学期	3 天気とそ の変化	1 気象観測と雲のでき方 2 前線とそのまわりの天気の変化	3 天気と その変化	3 大気の動きと日本 の天気

【評価の観点】

	自然事象への 関心・意欲・態度	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての知識・理解
第1分野 ・物理 ・化学	物質やエネルギーに関する事物・現象に進んでかかわり、それらを科学的に探求するとともに、事象を人間生活とのかかわりで見ようとする。	物質やエネルギーに関する事物・現象の中に問題を見だし、目的意識をもって観察、実験などを行い、事象や結果を分析して解釈し、表現している。	物質やエネルギーに関する事物・現象についての観察、実験の基本操作を習得するとともに、観察、実験の計画的な実施、結果の記録や整理など、事象を科学的に探求する技能の基礎を身に付けている。	観察や実験などを通して、物質やエネルギーに関する事物・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。
第2分野 ・生物 ・地学	生物とそれを取り巻く自然の事物・現象に進んでかかわり、それらを科学的に探求するとともに、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与しようとする。	生物とそれを取り巻く自然の事物・現象の中に問題を見だし、目的意識をもって観察、実験などを行い、事象や結果を分析して解釈し、表現している。	生物とそれを取り巻く自然の事物・現象に関する観察、実験の基本操作を習得するとともに、観察、実験の計画的な実施、結果の記録や整理など、事象を科学的に探求する技能の基礎を身に付けている。	観察や実験などを通して、生物とそれを取り巻く自然の事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。

【授業と評価の特色・評価の方法等】

(2) 授業と評価の特色

自然の事物・現象に進んでかかわり、目的意識をもって観察、実験などをおこなうことで、科学的に探究する能力の基礎と態度を育て、自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な見方や考え方を養うことが、理科教育の目標である。日常では、科学の時事問題にも注目し、現代社会と理科授業が関連しあうように、授業を進めている。評価においては、上表の4観点を客観的に測定し、評価評定を行っている。

(2) 評価の方法・機会等

- ① 日常の学習および観察・実験の際の取り組みの様子
- ② 観察・実験プリントや、ワークシートなど
 - ※ 模範解答や他人の答えの丸写しではなく、自分のためになる学習をして、提出することが大切である。
- ③ 単元テスト
 - ・テストについては1週間ほど前に範囲を提示する。
 - ・再テストが可能な観点については再テストを行う。行う観点など詳細はその都度提示する。
 - ※ 章末テストや単元末テストの前は章末問題、単元末問題、ノートやワークシートを見直して十分家庭学習すること。

【学習計画】

	単元	主な学習内容
1 学 期	4 地球と宇宙	1 宇宙の広がり 2 地球の運動と天体の動き 3 月と惑星の見え方 電流と磁界（2年の範囲）
	3 運動とエネルギー	1 物体のいろいろな運動 2 力の規則性
2 学 期	3 運動とエネルギー	3 エネルギーと仕事
	1 化学変化とイオン	1 水溶液とイオン 2 化学変化と電池 3 酸、アルカリとイオン
3 学 期	2 生命の連続性	1 生物の成長と生殖 2 遺伝の規則性と遺伝子
	5 地球と私たちの未来のために	2 遺伝の規則性と遺伝子 1 自然の中の生物 2 自然環境の調査と保全 3 自然の恵みと災害 4 科学技術と人間 終章 持続可能な社会をつくるために

【評価の観点】

	自然事象への 関心・意欲・態度	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての知識・理解
第1分野 ・物理 ・化学	物質やエネルギーに関する事物・現象に進んでかかわり、それらを科学的に探求するとともに、事象を人間生活とのかかわりでみようとす。	物質やエネルギーに関する事物・現象の中に問題を見だし、目的意識をもって観察、実験などを行い、事象や結果を分析して解釈し、表現している。	物質やエネルギーに関する事物・現象についての観察・実験の基本操作を習得するとともに、観察、実験の計画的な実施、結果の記録や整理など、事象を科学的に探求する技能の基礎を身に付けている。	観察や実験などを通して、物質やエネルギーに関する事物・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。
第2分野 ・生物 ・地学	生物とそれを取り巻く自然の事物・現象に進んでかかわり、それらを科学的に探求するとともに、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与しようとする。	生物とそれを取り巻く自然の事物・現象の中に問題を見だし、目的意識をもって観察、実験などを行い、事象や結果を分析して解釈し、表現している。	生物とそれを取り巻く自然の事物・現象についての観察・実験の基本操作を習得するとともに、観察、実験の計画的な実施、結果の記録や整理など、事象を科学的に探求する技能の基礎を身に付けている。	観察や実験などを通して、生物とそれを取り巻く自然の事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。

【授業と評価の特色・評価の方法等】

(1) 授業と評価の特色

自然の事物・現象に進んでかかわり、目的意識をもって観察、実験などをおこなうことで、科学的に探究する能力の基礎と態度を育て、自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な見方や考え方を養うことが、理科教育の目標である。日常では、科学の時事問題にも注目し、現代社会と理科授業が関連しあうように、授業を進めている。評価においては、上表の4観点を客観的に測定し、評価評定を行っている。

(2) 評価の方法・機会等

- ① 日常の学習および観察・実験の際の取り組みの様子
- ② 観察・実験プリントや、ワークシートなど
 - ※ 模範解答や他人の答えの丸写しではなく、自分のためになる学習をして、提出することが大切である。
- ③ 単元テスト
 - ・テストについては1週間ほど前に範囲を提示する。
 - ・再テストが可能な観点については再テストを行う。行う観点など詳細はその都度提示する。
 - ※ 章末テストや単元末テストの前は章末問題、単元末問題、ノートやワークシートを見直して十分家庭学習すること。

【学習計画】

	単元	主な学習内容
1 学期	Let's Start 1~4 Program 1 アルファベット Pro.2 アメリカからの転校生 Pro.3 ウッド先生がやってきた	あいさつ、身のまわりの英語 アルファベット、フォニックス、教室英語、辞書の引き方 be 動詞（肯定・疑問・否定） 一般動詞（肯定・疑問・否定）、命令文、曜日・天気
2 学期	Pro.4 リサイクル活動 My Project 1 Pro.5 国際フードフェスティバル Pro.6 由紀のイギリス旅行 Pro.7 The Wonderful Ocean Pro.8 Origami My Project 2	What, How many を使った疑問文 自己紹介スピーチ（show and tell） 代名詞、Where の疑問文、複数形、時刻の言い方たずね方 3単現（肯定・疑問・否定）、季節、月の名前、序数 Who, When, Which の疑問文、代名詞の仕組み Can（肯定・否定・疑問）、許可の求め方、How の疑問文 他己紹介スピーチ(show and tell)
3 学期	Pro.9 A New Year's Visit Pro.10 Mike's Visit to Washington, D.C Pro.11 Grandma Baba and Her Friends on a Sleigh My Project 3 暗唱 Young Americans	現在進行形（肯定・疑問）、What の疑問文 一般動詞過去（規則動詞）（肯定・疑問）、Why の疑問文 一般動詞過去（不規則動詞）（肯定・疑問） いろいろな質問で情報を得る 日記の書き方、インタビュー

【評価の観点】

① コミュニケーションへの関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語の背景にある文化に対する知識を深めようとしている。 ・聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いて、コミュニケーションを図ろうとしている。
② 外国語表現の能力	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて、話したり書いたりして表現したり、伝えあったりしている。
③ 外国語理解の能力	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的な話題や社会的な話題について書かれたりする文章等を聞いたり読んだりして、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、必要な情報や概要、要点などをとらえている。
④ 言語や文化の知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 (例：フォニックスやアクセント、イントネーション、区切りなどの発音、文字の書き方のきまり、それぞれの文法、あいさつなど) ・外国語の背景にある文化や生活について理解している。

【評価の特色・方法・機会等】

(1) 評価の特色

2クラス3展開の少人数で授業を行います。評価は同じ基準で行います。

(2) 評価の方法・機会等

単元テストの点数だけではなく、授業への参加態度、活動への取り組み状況などもポイントになります。

- | | | |
|------------|--------|--|
| ① 関心・意欲・態度 | ・実技テスト | ・普通の授業への取り組み等
ペアワーク、グループワークでの活動の様子、その他学習の様子 |
| ② 表現の能力 | ・実技テスト | ・単元テスト(書く問題)等 |
| ③ 理解の能力 | ・実技テスト | ・単元テスト(読む・聞く問題)等 |
| ④ 知識・理解 | ・実技テスト | ・単元テスト(単語・文法問題)等 |

【学習計画】

	単元	主な学習内容
1 学期	Program11 Grandma Baba and Her Friends on a Sleigh Program1 Did you enjoy your vacation? Power-up① GWの思い出 英語のしくみ① Program2 A trip to Finland Power-up② 天気予報と予定 Program3 What can we do for others? Power-up③ 電話①(依頼・誘う) 英語のしくみ②	一般動詞の過去形を理解して、物語を読み進める。 過去の体験について自分の体験を話したり、友人の話聞いて理解したりする。 順序を意識しながら連休中の思い出について英文を書く。 過去形、過去進行形の文構造についての知識を身につける。 未来の表現について理解し、それを使って表現する。 天気予報を聞いて正しく内容を理解する。 義務や禁止事項に関して説明することができる。 ペアで電話のスキットを作り、発表する。 未来表現と義務を表す表現の文構造について知識を身につける。
2 学期	My project④スキット作りを楽しもう Program4 Eigo Rakugo Program5 Gulliver's Travels Power-up⑥ 道案内① Program6 A work experience program 英語のしくみ③ Power-up⑤ インタビュー記事を書こう 英語のしくみ④ Program7 If you wish to see a change Power-up④ 食べ物の注文 My project⑤ こんな人になりたい Program8 Friendship across time and borders Program9 A video project	相槌や質問などの表現を含むスキットを作り、発表する。 落語に関する文章を読んで概要を理解する。 自分が紹介したい日本のお祭りや場所等についての英文を書き、発表する。 相手に適切に道案内をする。 したいこと、することが好きなことについて相手に伝えることができる。 There is 構文、接続詞 when/if、不定詞の文構造についての知識を身につける。 インタビューをし、結果を英語でまとめる。 動名詞、look 形容詞、SVOCの文構造についての知識を身につけている。 セヴァン・スズキの話を読んで理解し、感想を書く。 金額や品物の条件のもとでファーストフード店での注文の仕方を学ぶ。 自分の理想の人に関してスピーチを書き、発表する。 日本とトルコの間で起きた出来事に関して、キーワードを使い説明する。 ものを比較する表現についての対話を聞いて内容を理解する。
3 学期	Power-up⑦ 買い物②(シャツを買う) Program10 So many countries, so many customs Power-up⑧ 賛成意見・反対意見 Program11 Yui- to share is to live. Power-up⑨ 観光ガイドの説明 英語のしくみ⑤ My Project⑥CMを作ろう Program12 Her dream came true Extensive Reading	買い物の表現を使ってスキットを作り、発表する。 自分の大切なものについて伝える。 自分の考えが相手に伝わるように接続詞や副詞を用いて伝える。 段落の構成に気を付けて文章を書く。 ガイドの説明を聞いて要点を理解する。 比較変化、受け身の文構造についての知識を身につけている。 こんなものがほしいというテーマでスピーチをする。 主人公の心情に気を付けながら物語を読む。

【評価の観点】

① コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	・外国語の背景にある文化に対する知識を深めようとしている。 ・聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いて、コミュニケーションを図ろうとしている。
② 外国語表現の能力	・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて、話したり書いたりして表現したり、伝えあったりしている。
③ 外国語理解の能力	・日常的な話題や社会的な話題について書かれたりする文章等を聞いたり読んだりして、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、必要な情報や概要、要点などをとらえている。
④ 言語や文化の知識・理解	・英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 (例：フォニックスやアクセント、イントネーション、区切りなどの発音、文字の書き方のきまり、それぞれの文法、あいさつなど) ・外国語の背景にある文化や生活について理解している。

【評価の特色・方法・機会等】

(1) 評価の特色

2クラス3展開の少人数で授業を行います。評価は同じ基準で行います。

(2) 評価の方法・機会等

単元テストの点数だけでなく、授業への参加態度、活動への取り組み状況などもポイントになります。

- | | | |
|------------|--------|--|
| ① 関心・意欲・態度 | ・実技テスト | ・普段の授業への取り組み等
ペアワーク、グループワークでの活動の様子、その他学習の様子 |
| ② 表現の能力 | ・実技テスト | ・単元テスト(書く問題)等 |
| ③ 理解の能力 | ・実技テスト | ・単元テスト(読む・聞く問題)等 |
| ④ 知識・理解 | ・実技テスト | ・単元テスト(単語・文法問題)等 |

【学習計画】 ☆は卒業に向け力を入れる取り組み 各学期の下段はALTでの活動予定内容

	単元	主な学習内容
1 学期	Program1 A History of Vegetables Program2 Volcanoes in Japan 英語のしくみ① Program3 The 5Rs to Save the Earth 英語のしくみ② Program4 Faithful Elephants	受け身(過去)、「完了」を表す現在完了の表現とその運用 「継続」「経験」を表す現在完了の用法とその運用 現在完了について復習 It is ~ (for+ 人) to ... / know how to ~ / ask ~ to ...の用法 不定詞を含んだ表現の復習 戦争中の上野動物園のゾウの物語
	Power-up1 旅行(機内で) Power-up2 道案内②(電車の乗換) My Project⑦あの人にインタビューしよう Power-up3 お祝い・お礼メール	飛行機内で用いる定型表現とその運用 電車での目的地までの行き方をたずねたり伝えたりする表現 千代田区内の電車の乗換案内をできるようにする。 相手を想定して質問内容を考え、原稿を作成し、インタビューを行う。 お祝いやお礼を伝えるメールを書く。
2 学期	Program5 Sushi Go-Around in the world Program6 Let's Talk about Japanese Things 英語のしくみ③ Program7 What Is the Most Thing to You? Program8 Clean Energy Sources ☆Speaking力, Writing力, Reading力の強化	(主語+動詞+目的語+補語)で表される表現や間接疑問の用法と運用 日本から海外へ進出した人気の食べ物などについて調べて紹介する。 後置修飾の用法 分詞の後置修飾などの文構造の復習 関係代名詞(主格)の表現 関係代名詞(目的格)の表現 <教科書以外の副教材や英語のニュースなどを活用し、長文を読む活動を行う>
	Power-up4 電話②(伝言を受ける) My Project⑧日本文化を紹介しよう Power-up5 アナウンス(駅、空港など) Power-up6 ホームページで学校紹介	電話で用いる定型表現 身の回りのものや日本の文化の紹介のスピーチ発表を行う。 駅や空港でのアナウンス ホームページの学校紹介文を作成する。
3 学期	英語のしくみ④ Program9 Education First: Malala's Story Extensive-Reading ☆Speaking力, Writing力, Reading力の強化	関係代名詞の文構造の復習 パキスタンの少女、マララさんについてのストーリー。 ①1 min. Chat, ②My Opinion, ③Summary/Picture Describingを行う 1. After Twenty Years 2. Mother Teresa 3. The Hat <教科書以外の副教材や英語のニュースなどを活用し、長文を読む活動を行う>
	Power-up7 有名人の名言 Special Project 卒業に向けて・思いを伝えよう	有名人についての説明 卒業に向けてのメッセージをスピーチ

【評価の観点】

① コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に目的意識を持って参加している。 ・外国語の背景にある文化に対する知識を深めようとしている。 ・聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いて、コミュニケーションを図ろうとしている。
② 外国語表現の能力	<ul style="list-style-type: none"> ・正しいアクセント、イントネーション、区切りで英語を話せる。 ・いろいろな場面(条件)で、英語で表現し相手に伝えることができる。 ・相手の意図を理解し、それに応じて表現できる。 ・聞き手を意識して適切な音量や、明瞭さで話すことができる。
③ 外国語理解の能力	<ul style="list-style-type: none"> ・英語を聞いて相手の意図や大意を理解できる。 ・英語を読んで大意をつかみ簡単にまとめることができる。 ・話されている内容から、相手の意向を理解することができる。 ・質問や依頼などを聞いて、簡単な言葉や動作で応じることができる。
④ 言語や文化の知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 (例：フォニックスやアクセント、イントネーション、区切りなどの発音、文字の書き方のきまり、それぞれの文法、あいさつなど) ・外国語の背景にある文化や生活について理解している。

【評価の特色・方法・機会等】

(1) 評価の特色

2クラス3展開の少人数で授業を行います。評価は同じ基準で行います。

(2) 評価の方法・機会等

単元テストの点数だけでなく、授業への参加態度、活動への取り組み状況などもポイントになります。

- | | | |
|----------|------------------|--|
| ① 関心意欲態度 | ・実技テスト | ・普段の授業への取り組み等
ペアワーク、グループワークでの活動の様子、その他学習の様子 |
| ② 表現の能力 | ・実技テスト | ・単元テスト(書く問題)等 |
| ③ 理解の能力 | ・実技テスト | ・単元テスト(読む・聞く問題)等 |
| ④ 知識・理解 | ・単元テスト(単語・文法問題)等 | |

	題材名	主な教材内容
1 学期	オリエンテーション ※家庭学習含む 校歌に親しもう 音楽の特徴から情景を想像しよう リズムアンサンブルを楽しもう①	「麹町中学校校歌」 和声と創意の試み第1集「四季」より「春」第一楽章 (ヴィヴァルディ・ソネット・リトルネッロ形式) 創作「リズムアンサンブル」
2 学期	リズムアンサンブルを楽しもう② 物語を歌で表現する芸術を味わおう 言葉の抑揚を活かして旋律を作ろう 日本の伝統音楽に親しもう	グループでのアンサンブル創作 「魔王」「野ばら」「ます」シューベルト・リート 絵本諸作品より 雅楽「越天楽」雅楽の楽器・唐楽・高麗楽(雅楽鑑賞)
3 学期	箏の表現を味わいながら鑑賞しよう 雅楽鑑賞 ギターの基礎 ギターで美しく伴奏を奏でよう	「六段の調」箏・八橋検校 「喜びの歌」ギターの基本的な演奏方法 大きな古時計 アポヤンド奏法・アルアイレ奏法・コード ポピュラーソング諸作品 コード演奏

【評価の観点】

(1) 音楽への関心・意欲・態度	音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽に対する関心をもち、主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとする。
(2) 音楽表現の創意工夫	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、音楽表現を工夫し、どのように表すかについて思いや意図をもっている。
(3) 音楽表現の技能	創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。
(4) 鑑賞の能力	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、解釈したり価値を考えたりして、多様な音楽のよさや美しさを味わって聴いている。

【評価の特色・方法・機会等】

(1) 評価の特色

音楽科の学習においては「自らが活動する」ことが大切です。歌唱では適切な呼吸法で技術習得のための活動を行い、曲全体の流れや詩のもつ意味を考え、より多彩な表現をすることが重要です。今年度は、コロナウィルスの影響で歌唱活動を行うことが難しいですが、創作活動を通して自分の思いや意図を音楽で表現できるよう、学習内容を工夫して進めていきます。また、器楽ではギターを扱い、生涯にわたって音楽を楽しむことができるよう、基礎的な内容から学習を進めていきます。

評価においてはその時間をどのように意欲的に活動したかを評価します。

(2) 評価の方法・機会等

- ① 毎時間の活動の意欲・態度を評価する。
- ② 音楽表現のさまざまな要素を理解し、練習しているか演奏技術を評価する。
- ③ 実技テストやプリント学習の成果を評価する。
- ④ 音楽史全体から見た位置づけも考え鑑賞し、自らの感想や意見を述べるができるか評価する。

【学習計画】

	題材名	主な教材内容
1 学期	※家庭学習 情景と音楽の関わり パートの役割を理解して表現の工夫をしよう 詩と音楽との関わりを理解し、表現を工夫しよう	「おススメ MUSIC まとめ」 「春」 / ヴィヴァルディ 「リズムアンサンブル」 「夏の思い出」
2 学期	声部の重なり方の理解と表現の工夫 楽器の特徴を知り音色や奏法を工夫して表現しよう 音楽ソフトを使い、表現の工夫をしよう	「フーガ ト短調」 / バッハ 「アルプス一万尺」 (ギター) 「ボーカロイド」 (音楽創作)
3 学期	動機の展開を伴う形式のおもしろさ 舞台音楽と音楽 歌舞伎の特徴を理解してその魅力を味わおう	「交響曲第5番 ハ短調」 / ベートーヴェン 「アイダ」 / ヴェルディ 歌舞伎「勧進帳」

【評価の観点】

(1) 音楽への関心・意欲・関心	音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽に対する関心を高め、主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとする。
(2) 音楽表現の創意工夫	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、ふさわしい音楽表現を工夫し、どのように表すかについて思いや意図をもっている。
(3) 音楽表現の技能	創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を伸ばし、歌唱、器楽、創作で表している。
(4) 鑑賞の能力	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、解釈したり価値を考えたりして、多様な音楽に対する理解を深め、味わって聴いている。

【評価の特色・方法・機会等】

(1) 評価の特色

音楽科の学習においては「自らが活動する」ことが大切です。歌唱では適切な呼吸法で技術習得のための活動を行い、曲全体の流れや詩のもつ意味を考え、より多彩な表現をすることが重要です。

評価においてはその時間をどのように意欲的に活動したかを評価します。

(2) 評価の方法・機会等

- ① 毎時間の活動の意欲・態度を評価する。
- ② 音楽表現のさまざまな要素を理解し、練習しているか演奏技術を評価する。
- ③ 実技テストやプリント学習の成果を評価する。
- ④ 音楽史全体から見た位置づけも考え鑑賞し、自らの感想や意見を述べるができるか評価する。

【学習計画】

	題材名	主な教材内容
1学期	オリエンテーション (家庭学習を含む) 日本の歌の良さや美しさを味わい、表現しよう リズムアンサンブルを楽しもう① 能や歌舞伎の特徴を理解してその魅力を味わおう	「花」滝廉太郎、通作歌曲 創作「リズムアンサンブル」 能楽「羽衣」 文楽「新版歌祭文」 歌舞伎「勧進帳」
2学期	リズムアンサンブルを楽しもう② 言葉の抑揚を活かして旋律を作ろう 音楽の特徴や背景を理解してその魅力を味わおう ギターの基本的な奏法を身に付けよう ポピュラー音楽をギターで楽しもう	グループでのアンサンブル創作 詩を用いた旋律の創作 連作交響詩「我が祖国」よりブルタバ (国民楽派 スメタナ)
3学期	音楽史の流れを理解して音楽を楽しもう 仲間とともに表情豊かに合唱しよう ポピュラー曲をギターで楽しむ	音楽史まとめ 卒業期の合唱「旅立ちの日に」 ポピュラー諸作品

【評価の観点】

(1) 音楽への関心・意欲・関心	音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽に対する関心を高め、主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとする。
(2) 音楽表現の創意工夫	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、ふさわしい音楽表現を工夫し、どのように表すかについて思いや意図をもっている。
(3) 音楽表現の技能	創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を伸ばし、歌唱、器楽、創作で表している。
(4) 鑑賞の能力	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、解釈したり価値を考えたりして、多様な音楽に対する理解を深め、味わって聴いている。

【評価の特色・方法・機会等】

(1) 評価の特色

音楽科の学習においては「自らが活動する」ことが大切です。歌唱では適切な呼吸法で技術習得のための活動を行い、曲全体の流れや詩のもつ意味を考え、より多彩な表現をすることが重要です。今年度は、コロナウィルスの影響で歌唱活動を行うことが難しいですが、創作活動を通して自分の思いや意図を音楽で表現できるよう、学習内容を工夫して進めていきます。また、器楽ではギターを扱い、生涯にわたって音楽を楽しむことができるよう、基礎的な内容から学習を進めていきます。

(2) 評価の方法・機会等

- ① 毎時間の活動の意欲・態度を評価する。
- ② 音楽表現のさまざまな要素を理解し、練習しているか演奏技術を評価する。
- ③ 実技テストやプリント学習の成果を評価する
- ④ 音楽史全体から見た位置づけも考え鑑賞し、自らの感想や意見を述べるができるか評価する。

【学習計画】

	題材	主な学習内容
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・手帳表紙デザイン 	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな描画材を活用して、手帳カバーに自身の使い心地を考えてデザインする。愛着の湧くデザインを学ぶ。
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・色彩基礎 「色を知る」 ・3原色で描く 「四季の配色」 ・レタリング基礎 ・マークデザイン 	<ul style="list-style-type: none"> ・色の3要素（色相、明度、彩度）、アクリルガッシュの特性と使い方を学ぶ。 ・色の3原色のみを用いて、四季のイメージカラーをつくり、色による印象効果を学ぶ。 ・レタリングを学び、造形的に美しい書体を学ぶ。 ・身の周りにあるデザインから、イメージの伝え方やデザインの意図を学ぶ。
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・手のデッサン 「夢を掴む手のかたち」 ・手の塑造 「夢を掴む手のかたち」 	<ul style="list-style-type: none"> ・鉛筆による描画を駆使して、光と陰影の関係を学ぶ。 ・粘土の特性を知り、骨や筋肉などものの構造を学ぶ。

【評価の観点】

(1)関心・意欲・態度	美術の創作活動の喜びを味わい、主体的に表現や鑑賞の学習に取り組もうとしている。
(2)発想や構想の能力	感性や想像力を働かせて豊かに発想し、感じ取ったことや考えたこと、目的や機能などを基に心豊かな表現の構想を練っている。
(3)創造的な技能	感性や造形感覚などを働かせて、表現の技能を身に付け、意図に応じて表現方法などを創意工夫し創造的に表している。
(4)鑑賞の能力	感性や想像力を働かせて、美術作品などから良さや美しさなどを感じ取り味わったり、美術文化を理解したりしている。

【評価の特色・方法・機会等】

(1)評価の特色

各題材の目標に沿って4つの評価観点から総合的に評価を行う。作品の完成度、コンセプトの説得力、独創性や実験的なアプローチなど個々の良いところを積極的に評価する。また、課題に取り組む様子、ワークシートなどの取り組みも大切に評価する。

(2)評価の方法・機会等

- ①授業への姿勢や、課題への取り組み方、制作計画表などを評価する。
- ②アイデアスケッチや、構想中および制作中の試行錯誤の様子などを評価する。
- ③ねらいをもった表現方法の創意工夫を評価する。また描画材・支持体の特性の理解度合いや、それらの効果的な活用方法、創造的な表現方法を評価する。
- ④鑑賞に関する振り返りワークシートへの取り組み方などを評価する。

【学習計画】

	題材	主な学習内容
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・手帳表紙デザイン 	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな描画材を活用して、手帳カバーに自身の使い心地を考えてデザインする。愛着の湧くデザインを考える。
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・スクラッチ（アートグラス） 「自宅に飾るシュールな風景画」 ・額縁装飾 「作品を引き立てるには一」 	<ul style="list-style-type: none"> ・目的に沿った主題を考える。スクラッチ技法を用いた線の特性を理解し、その描画方法を学ぶ。 ・2学期第1課題を装飾するための額縁を、カービング技法やモデリング技法で制作する。額縁の用途と役割を理解し、目的や機能を考えて表現する。
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・りんごをつくる 「りんごかもしれない」 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本『りんごかもしれない』から着想し、あるはずのないりんごを発想し制作する。本課題を通して発想力を高める。

【評価の観点】

(1)関心・意欲・態度	美術の創作活動の喜びを味わい、主体的に表現や鑑賞の学習に取り組もうとしている。
(2)発想や構想の能力	感性や想像力を働かせて豊かに発想し、感じ取ったことや考えたこと、目的や機能などを基に心豊かな表現の構想を練っている。
(3)創造的な技能	感性や造形感覚などを働かせて、形や色などの表し方を身に付け、意図に応じて材料や用具の使い方、表現方法などを創意工夫し創造的に表している。
(4)鑑賞の能力	感性や造形感覚を働かせて、造形的な良さや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫、生活の中の美術の働きなどを感じ取り、見方を広げ、美術文化の在り方や良さに気付いている。

【評価の特色・方法・機会等】

(1)評価の特色

各題材の目標に沿って4つの評価観点から総合的に評価を行う。作品の完成度、コンセプトの説得力、独創性や実験的なアプローチなど個々の良いところを積極的に評価する。また、課題に取り組む様子、ワークシートなどの取り組みも大切にす。

(2)評価の方法・機会等

- ①授業への姿勢や、課題への取り組み方、制作計画表などを評価する。
- ②アイデアスケッチや、構想中および制作中の試行錯誤の様子などを評価する。
- ③ねらいをもった表現方法の創意工夫を評価する。また描画材・支持体の特性の理解度合いや、それらの効果的な活用方法、創造的な表現方法を評価する。
- ④鑑賞に関する振り返りワークシートへの取り組み方などを評価する。

【学習計画】

	題材	主な学習内容
1 学期	・オリエンテーション ・手帳カバーデザイン	・さまざまな描画材を活用して、手帳カバーに自身の使い心地を考えてデザインする。愛着の湧くデザインを学ぶ。
2 学期	・卒業制作 「新生活の時を刻む」 ・メッセージカード制作 「感謝を伝えよう」または、 「未来の自分への抱負を語ろう」	・彫塑、着彩でスタンドクロックを制作する。目的に合わせた主題の創出とその造形表現や機能性を学ぶ。 ・主題や目的を決定し、実際にその送り主に向けてのメッセージカードを制作する。決定した主題や目的に合わせて、効果的に伝える表現方法を構想する。
3 学期	・メッセージカード制作 「感謝を伝えよう」または、 「未来の自分への抱負を語ろう」	・主題や目的に合わせて効果的に伝える表現方法を身に付ける。

【評価の観点】

(1)関心・意欲・態度	美術の創作活動の喜びを味わい、主体的に表現や鑑賞の学習に取り組もうとしている。
(2)発想や構想の能力	感性や想像力を働かせて豊かに発想し、感じ取ったことや考えたこと、目的や機能などを基に心豊かな表現の構想を練っている。
(3)創造的な技能	感性や造形感覚などを働かせて、表現の技能を身に付け、意図に応じて表現方法などを創意工夫し創造的に表している。
(4)鑑賞の能力	感性や想像力を働かせて、美術作品などから良さや美しさなどを感じ取り味わったり、美術文化を理解したりしている。

【評価の特色・方法・機会等】

(1)評価の特色

各題材の目標に沿って4つの評価観点から総合的に評価を行う。作品の完成度、コンセプトの説得力、独創性や実験的なアプローチなど個々の良いところを積極的に評価する。また、課題に取り組む様子、ワークシートなどの取り組みも大切にする。

(2)評価の方法・機会等

- ①授業への姿勢や、課題への取り組み方、制作計画表などを評価する。
- ②アイデアスケッチや、構想中および制作中の試行錯誤の様子などを評価する。
- ③ねらいをもった表現方法の創意工夫を評価する。また描画材・支持体の特性の理解度合いや、それらの効果的な活用方法、創造的な表現方法を評価する。
- ④鑑賞に関する振り返りワークシートへの取り組み方などを評価する。

【学習計画】

	単元	主な学習内容
1 学期	集団行動 体づくり運動 ダンス 陸上競技 バレーボール（女子） 保健・体育理論	基本動作・集団行動・ラジオ体操・エアロビクス ※ラジオ体操・体づくり運動は年間を通して実施 麴中エアロビクス 50m、走幅跳、ハードル：クラウチングスタート・助走・踏切・跳躍・ハードリング 個人技能：レシーブ・トス・アタック 集団技能：対人パス・簡易ルールによるゲーム 導入、心身の発達と心の健康、スポーツの多様性
2 学期	体づくり運動 バレーボール（男子） 陸上競技 ベースボール 器械運動（マット） 剣道（男子） 保健・体育理論	ラジオ体操・総合的な体力づくり 個人技能：レシーブ・トス・アタック 集団技能：対人パス・簡易ルールによるゲーム 50m、走幅跳、長距離走：クラウチングスタート・助走・踏切・跳躍・時間走 基本動作の習得：基本的なバット操作、走塁、ボール操作、定位置での守備 技の習得・自己の技能にあわせた連続技の組み立て 個人技能の習得：礼法・構えと体さばき・基本打突・防具着装 対人技能の習得：しかけ技と応じ技 心身の発達と心の健康、スポーツの多様性
3 学期	体づくり運動 合気道（女子） バドミントン サッカー 保健・体育理論	ラジオ体操・総合的な体力づくり 個人技能の習得：礼法・構えと呼吸法・基本動作・受け身 対人技能の習得：固め技と投げ技 基本動作の習得：ストローク、スマッシュ、シングルス、ダブルス 個人技能の習得：ドリブル・パス・シュート 集団技能の習得：対人パス・簡易ルールによるゲーム 心身の発達と心の健康、スポーツの多様性

【評価の観点】

(1) 運動や健康・安全への関心 ・意欲・態度	自ら進んで運動を実施し、運動の楽しさや喜びを体得しようとする。また、個人生活における健康・安全に関心をもち、意欲的に学習に取り組もうとする。
(2) 運動や健康・安全について の思考・判断	自己の能力に適した運動の課題の解決を目指して、活動の仕方を考え、工夫している。また、個人生活における健康・安全について、課題の解決を目指して考え、判断している。
(3) 運動の技能	運動の楽しさや喜びを味わうために必要な技能や体力を高めるための運動の合理的な行い方を身に付けている。
(4) 運動や健康・安全について の知識・理解	運動の特性と運動の合理的な実践に関する基礎的な事項や生活における運動の意義を理解し、知識を身に付けている。また、個人生活における健康・安全について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、基礎を身に付けている。

【評価の特色・方法・機会等】

(1) 評価の特色

保健体育科の学習においては「積極的に運動に親しむ資質や能力」の育成を目指すことが大切であり、日々の学習活動を通して、運動への関心や自ら運動する意欲、仲間と仲良く運動すること、各種の運動に触れる楽しさや喜びを味わえるよう自ら考えたり工夫したりする力、運動の技能や知識・理解などを養い育てていくことが重要である。

評価においては、「知識・技能をどれだけ身に付けたか（習得）」だけでなく、「学習した知識・技能をどのように生かしているか（活用）」「自らの課題を持ち、どのように解決を目指しているか（探究）」「自らの考えで、いかに活動の仕方を工夫しているか（探究）」等、主体的・意欲的な態度を重視していく。したがって、実技テストやレポート・プリントの点数のみで、評価するのではなく、日々の学習活動も、意図的に評価の機会として捉え、総合的に評価していく。

(2) 評価の方法・機会等

- ① 学習状況を評価する。
- ② 学習活動を観察し、意欲・態度・協力・判断・工夫・技能・理解などを評価する。
- ③ 実技テストや記録・発表内容を評価する。
- ④ 学習カード等による、生徒自身の取り組み内容を評価の参考にする。
- ⑤ レポート・プリントの結果を評価する。

* 補助資料 教師の補助簿による観察・チェック 学習ノートや学習カード等による記載内容

【学習計画】

	単元	主な学習内容
1 学期	集団行動 体づくり運動 ダンス 陸上競技 バレーボール（女子） 保健・体育理論	基本動作・集団行動・ラジオ体操・エアロビクス ※ラジオ体操・体づくり運動は年間を通して実施 趣中エアロビクス 50m、走幅跳、ハードル：クラウチングスタート・助走・踏切・跳躍・ハードリング 個人技能：レシーブ・トス・アタック 集団技能：対人パス・簡易ルールによるゲーム 導入、心身の発達と心の健康、スポーツの多様性
2 学期	体づくり運動 バレーボール（男子） 陸上競技 ベースボール 器械運動（マット） 剣道（男子） 保健・体育理論	ラジオ体操・総合的な体力づくり 個人技能：レシーブ・トス・アタック 集団技能：対人パス・簡易ルールによるゲーム 50m、走幅跳、長距離走：クラウチングスタート・助走・踏切・跳躍・時間走 基本動作の習得：基本的なバット操作、走塁、ボール操作、定位置での守備 技の習得・自己の技能にあわせた連続技の組み立て 個人技能の習得：礼法・構えと体さばき・基本打突・防具着装 対人技能の習得：しかけ技と応じ技 心身の発達と心の健康、スポーツの多様性
3 学期	体づくり運動 合気道（女子） バドミントン サッカー 保健・体育理論	ラジオ体操・総合的な体力づくり 個人技能の習得：礼法・構えと呼吸法・基本動作・受け身 対人技能の習得：固め技と投げ技 基本動作の習得：ストローク、スマッシュ、シングルス、ダブルス 個人技能の習得：トリプル・パス・シュート 集団技能の習得：対人パス・簡易ルールによるゲーム 心身の発達と心の健康、スポーツの多様性

【評価の観点】

(1) 運動や健康・安全への関心・意欲・態度	自ら進んで運動を実施し、運動の楽しさや喜びを体得しようとする。また、個人生活における健康・安全に関心をもち、意欲的に学習に取り組もうとする。
(2) 運動や健康・安全についての思考・判断	自己の能力に適した運動の課題の解決を目指して、活動の仕方を考え、工夫している。また、個人生活における健康・安全について、課題の解決を目指して考え、判断している。
(3) 運動の技能	運動の楽しさや喜びを味わうために必要な技能や体力を高めるための運動の合理的な行い方を身に付けている。
(4) 運動や健康・安全についての知識・理解	運動の特性と運動の合理的な実践に関する基礎的な事項や生活における運動の意義を理解し、知識を身に付けている。また、個人生活における健康・安全について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、基礎を身に付けている。

【評価の特色・方法・機会等】

(1) 評価の特色

保健体育科の学習においては「積極的に運動に親しむ資質や能力」の育成を目指すことが大切であり、日々の学習活動を通して、運動への関心や自ら運動する意欲、仲間と仲良く運動すること、各種の運動に触れる楽しさや喜びを味わえるよう自ら考えたり工夫したりする力、運動の技能や知識・理解などを養い育てていくことが重要である。

評価においては、「知識・技能をどれだけ身に付けたか（習得）」だけでなく、「学習した知識・技能をどのように生かしているか（活用）」「自らの課題を持ち、どのように解決を目指しているか（探究）」「自らの考えで、いかに活動の仕方を工夫しているか（探究）」等、主体的・意欲的な態度を重視していく。したがって、実技テストやレポート・プリントの点数のみで、評価するのではなく、日々の学習活動も、意図的に評価の機会として捉え、総合的に評価していく。

(2) 評価の方法・機会等

- ① 学習状況を評価する。
- ② 学習活動を観察し、意欲・態度・協力・判断・工夫・技能・理解などを評価する。
- ③ 実技テストや記録・発表内容を評価する。
- ④ 学習カード等による、生徒自身の取り組み内容を評価の参考にする。
- ⑤ レポート・プリントの結果を評価する。

* 補助資料 教師の補助簿による観察・チェック 学習ノートや学習カード等による記載内容

【学習計画】

	単元	主な学習内容
1 学期	集団行動 体づくり運動 ダンス 陸上競技 バレーボール（女子） 保健・体育理論	基本動作・集団行動・ラジオ体操・エアロビクス ※ラジオ体操・体づくり運動は年間を通して実施 趣中エアロビクス 50m、走幅跳、ハードル：クラウチングスタート・助走・踏切・跳躍・ハードリング 個人技能：レシーブ・トス・アタック 集団技能：対人パス・簡易ルールによるゲーム 導入、心身の発達と心の健康、スポーツの多様性
2 学期	体づくり運動 バレーボール（男子） 陸上競技 ベースボール 器械運動（マット） 剣道（男子） 保健・体育理論	ラジオ体操・総合的な体力づくり 個人技能：レシーブ・トス・アタック 集団技能：対人パス・簡易ルールによるゲーム 50m、走幅跳、長距離走：クラウチングスタート・助走・踏切・跳躍・時間走 基本動作の習得：基本的なバット操作、走塁、ボール操作、定位置での守備 技の習得・自己の技能にあわせた連続技の組み立て 個人技能の習得：礼法・構えと体さばき・基本打突・防具着装 対人技能の習得：しかけ技と応じ技 心身の発達と心の健康、スポーツの多様性
3 学期	体づくり運動 合気道（女子） バドミントン サッカー 保健・体育理論	ラジオ体操・総合的な体力づくり 個人技能の習得：礼法・構えと呼吸法・基本動作・受け身 対人技能の習得：固め技と投げ技 基本動作の習得：ストローク、スマッシュ、シングルス、ダブルス 個人技能の習得：ドリブル・パス・シュート 集団技能の習得：対人パス・簡易ルールによるゲーム 心身の発達と心の健康、スポーツの多様性

【評価の観点】

(1) 運動や健康・安全への関心・意欲・態度	自ら進んで運動を実施し、運動の楽しさや喜びを体得しようとする。また、個人生活における健康・安全に関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとする。
(2) 運動や健康・安全についての思考・判断	自己の能力に適した運動の課題の解決を目指して、活動の仕方を考え、工夫している。また、個人生活における健康・安全について、課題の解決を目指して考え、判断している。
(3) 運動の技能	運動の楽しさや喜びを味わうために必要な技能や体力を高めるための運動の合理的な行い方を身に付けている。
(4) 運動や健康・安全についての知識・理解	運動の特性と運動の合理的な実践に関する基礎的な事項や生活における運動の意義を理解し、知識を身に付けている。また、個人生活における健康・安全について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、基礎を身に付けている。

【評価の特色・方法・機会等】

(1) 評価の特色

保健体育科の学習においては「積極的に運動に親しむ資質や能力」の育成を目指すことが大切であり、日々の学習活動を通して、運動への関心や自ら運動する意欲、仲間と仲良く運動すること、各種の運動に触れる楽しさや喜びを味わえるよう自ら考えたり工夫したりする力、運動の技能や知識・理解などを養い育てていくことが重要である。

評価においては、「知識・技能をどれだけ身に付けたか（習得）」だけでなく、「学習した知識・技能をどのように生かしているか（活用）」「自らの課題を持ち、どのように解決を目指しているか（探究）」「自らの考えで、いかに活動の仕方を工夫しているか（探究）」等、主体的・意欲的な態度を重視していく。したがって、実技テストやレポート・プリントの点数のみで、評価するのではなく、日々の学習活動も、意図的に評価の機会として捉え、総合的に評価していく。

(2) 評価の方法・機会等

- ① 学習状況を評価する。
- ② 学習活動を観察し、意欲・態度・協力・判断・工夫・技能・理解などを評価する。
- ③ 実技テストや記録・発表内容を評価する。
- ④ 学習カード等による、生徒自身の取り組み内容を評価の参考にする。
- ⑤ レポート・プリントの結果を評価する。

* 補助資料 教師の補助簿による観察・チェック 学習ノートや学習カード等による記載内容

【学習計画】

	題材	主な学習内容
1 学期	材料と加工に関する技術	① 生活や社会における技術の役割 ② 材料 ③ 設計の進め方 ④ 機能と構造 ⑤ 製図 ⑥ 木工作品の製作（マジカルボードB） ・製作の準備・工具の使用法 ・けがき
2 学期		・切断 ・切削 ・穴あけ、ねじ切り ・部品の検査と修正 ・組み立て
3 学期	材料と加工に関する技術 情報に関する技術（1）	・仕上げ ① 情報とわたしたちの生活 ・ネットワークの構成 ・ネットワークにできること ・情報を伝えるしくみ ② 情報モラルと知的財産 ・利用、発信するときのモラル ・人権や個人情報の保護 ・知的財産権の保護

【評価の特色・方法・機会等】

(1) 評価の特色

技術分野は、自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的に対応できる能力を育成するとともに、基礎的・基本的な内容を重視し、個性を生かす教育を充実することを目指している。

学習の目標を明確にすることが必要であり、それを受けて評価の観点を示さなければならない。生徒一人一人の良さや可能性を積極的に評価し、豊かな自己実現に役立たせることが重要となってくる。

また、4つの観点は同等に扱い、各観点の点数を総合計し、満点の合計に対する割合を求め、基準に当てはめて評定をつける。

(2) 評価の方法・機会等

以下の点をもとに、総合的に判断して評価する。

- ① 日常の学習および実践的・体験的な学習活動の意欲や態度を評価する。
- ② 作品の製作過程での作品の状況、完成品を見て評価する。
- ③ 作品のレポートや、各種プリント等の評価
→レポート・プリントは期限内に提出しましょう。
- ④ 作品の完成時の、自己評価も評価の参考にする。
- ⑤ 単元テスト
- ⑥ その他の学習課題

【学習計画】

	題材	主な学習内容
1 学期	生物育成に関する技術	① わたしたちの生活と生物育成 ・生物育成とは ・作物や家畜などの特性と生物育成技術 ・生物育成のライフサイクル ② 作物の栽培 ・栽培ごよみ ・環境要因 ・生育の規則性と技術 ・土、肥料 ・たねまき、間引き ・定食後の管理 ・収穫の方法と保存、収穫後の管理 ・栽培計画 ・栽培実習 （※自宅でスプラウトの栽培を行いレポートを提出） ③ 生物育成に関する技術とわたしたち ・社会・環境との関り ・生物育成に関する技術とわたしたちの未来
2 学期	エネルギー変換に関する技術	① わたしたちの生活とエネルギー変換 ② エネルギーの変換と利用 ③ 動力伝達の機構とその利用 ④ 機器の安全な利用と保守点検 ⑤ 機械の安全な利用と事故防止 ⑥ 総合実習（手回し発電ラジオの製作） ⑦ エネルギー変換に関する技術とわたしたち
3 学期	情報に関する技術（2）	① コンピュータと情報処理 ・コンピュータの構成 ・デジタル化と情報の量 ② ネットワークと情報セキュリティ ・ネットワークの安全性 ・情報セキュリティ

【評価の特色・方法・機会等】

(1) 評価の特色

技術分野は、自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的に対応できる能力を育成するとともに、基礎的・基本的な内容を重視し、個性を生かす教育を充実することを目指している。

学習の目標を明確にすることが必要であり、それを受けて評価の観点を示さなければならない。生徒一人一人の良さや可能性を積極的に評価し、豊かな自己実現に役立たせることが重要となってくる。

また、4つの観点は同等に扱い、各観点の点数を総合計し、満点の合計に対する割合を求め、基準に当てはめて評定をつける。

(2) 評価の方法・機会等

以下の点をもとに、総合的に判断して評価する。

- ① 日常の学習および実践的・体験的な学習活動の意欲や態度を評価する。
- ② 作品の製作過程での作品の状況、完成品を見て評価する。
- ③ 作品のレポートや、各種プリント等の評価
→レポート・プリントは期限内に提出しましょう。
- ④ 作品の完成時の、自己評価も評価の参考にする。
- ⑤ 単元テスト
- ⑥ その他の学習課題

【学習計画】

	題材	主な学習内容
1 学期	情報に関する技術（3）	① プログラムによる計測・制御 ・生活の中にある計測・制御 ・計測・制御のしくみコンピュータの構造 ・情報処理の手順とプログラム ・プログラムによる機器の制御 （オーロラクロックの制御）
2 学期		② デジタル作品の制作 ・生活の中のメディア ・情報の収集と加工 ・作品の制作（表計算ソフトウェア総合実習）
3 学期		③ 情報に関する技術とわたしたち ・社会・環境との関り ・情報社会を生きるために

【評価の特色・方法・機会等】

（1）評価の特色

技術分野は、自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的に対応できる能力を育成するとともに、基礎的・基本的な内容を重視し、個性を生かす教育を充実することを目指している。

学習の目標を明確にすることが必要であり、それを受けて評価の観点を示さなければならない。生徒一人一人の良さや可能性を積極的に評価し、豊かな自己実現に役立たせることが重要となってくる。

また、4つの観点は同等に扱い、各観点の点数を総合計し、満点の合計に対する割合を求め、基準に当てはめて評定をつける。

（2）評価の方法・機会等

以下の点をもとに、総合的に判断して評価する。

- ① 日常の学習および実践的・体験的な学習活動の意欲や態度を評価する。
- ② 作品の製作過程での作品の状況、完成品を見て評価する。
- ③ 作品のレポートや、各種プリント等の評価
→レポート・プリントは期限内に提出しましょう。
- ④ 作品の完成時の、自己評価も評価の参考にする。
- ⑤ 単元テスト
- ⑥ その他の学習課題

【学習計画】

	題材	主な学習内容
1 学 期	ガイダンス 【家族・家庭と子どもの成長】 1 わたしたちと家族・家庭と地域 【衣生活と住生活の自立】 2 日常着の手入れ	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校で学習したことを踏まえ、これからの学習に見通しをもつ。 ・家庭のはたらきと、自分や家族の生活が家庭内外の活動で支えられていることを学習する。 ・家庭生活と地域のかかわりについて学習する。 ・補修の技術をいかした製作。
2 学 期	1 日常着の活用 【食生活の自立】 1 健康と食生活 2 食品の選択と保存	<ul style="list-style-type: none"> ・自分や家族の生活を振り返り、衣服の役割と活用の仕方を学習する。 ・洋服と和服の構成の違いを学習する。 ・衣服の購入時の注意点について学習する。 ・毎日の食事を振り返り、食事の役割と規則正しい食事の重要性を学習する。 ・栄養素のはたらきと、中学生に必要な栄養の特徴について学習する。 ・食品の栄養的な特徴や食品群別摂取量のめやすについて学習する。 ・生鮮食品と加工食品の特徴と表示、食品の選択の仕方や適切な保存について学習する。
3 学 期	3 調理をしよう 4 地域の食材と食文化	<ul style="list-style-type: none"> ・調理の流れや手順、計画の立て方、安全や衛生について学習する。 ・和食の調理を通して魚、だしについて学習する。 ・伝統的な食文化について学習し、レポートにまとめる。

【学習計画】

	題材	主な学習内容
1 学 期	ガイダンス 【衣生活と住生活の自立】 1 住まいのはたらき 2 健康で安全な住まい 3 住まいと地域	<ul style="list-style-type: none"> ・ これからの学習の見通しをもつ。 ・ 家族の生活行為と空間のかかわりについて考え、住まいのはたらきと必要な空間について学習する。 ・ 家族によって住まい方が違うことを学習する。 ・ 災害も含め、安全で快適な住まいにするための方法を考え、学習する。
2 学 期	【身近な消費生活と環境】 1 家庭生活と消費 2 商品の選択と購入 3 よりよい消費生活のために 4 環境に配慮した消費生活 【食生活の自立】 3 調理をしよう	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の生活を振り返り、生活に必要なものの流れを学習する。 ・ 商品購入のプロセスを通して情報収集や考慮すべきこと、販売方法や支払い方法などを学習する。 ・ 契約や消費生活におけるトラブル、その対処法を考え、学習する。 ・ 消費者の権利や責任、消費者を支える法律等を学習する。 ・ 自分の生活を振り返り、持続可能な社会に向けて取り組めることを考える。 ・ 調理の流れや手順、計画の立て方、安全や衛生について学習する。 ・ 中華の調理を通して肉について学習する。
3 学 期	2 食品の選択と保存	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生鮮食品と加工食品の特徴と表示、食品の選択の仕方や適切な保存について学習する。 ・ 献立の立て方を学習し、1日分の献立の作成をする。

第3学年 技術・家庭科（家庭分野）

【学習計画】

	題材	主な学習内容
1 学 期	ガイダンス 【家族・家庭と子どもの成長】 2 幼児の生活と遊び	<ul style="list-style-type: none"> ・ これからの学習に見通しをもつ。 ・ 自分の成長を振り返る。 ・ 幼児の心身の発達と家族の役割について学習する。 ・ 幼児の遊びを支える遊具やおもちゃ、環境について学習する。 ・ 製作
2 学 期	3 幼児とのふれ合い	(製作続き) <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児の遊びの意義や、遊びと発達の特徴を学習する。 ・ 子供の成長と地域のかかわりを学習する。 ・ 幼児の観察を通して幼児への関心を深め、かかわり方を考える。
3 学 期	4 これからのわたしと家族 【食生活と自立】 4 地域の食材と食文化 【身近な消費生活と環境】 4 環境に配慮した消費生活	<ul style="list-style-type: none"> ・ これからの自分と家族とのかかわりや自分の生活に関心をもち、家族関係をよりよくしていく方法を考える。 ・ 和菓子の実習を通して、食の伝統文化を学習する。 ・ 環境に配慮した生活スタイルを実現するために、地域や社会に取り組みを学習し、自分や家族で取り組めることを考える。

【評価の観点】（3 学年共通）

(1)生活の技術への関心・意欲・態度	衣食住や家族の生活などについて関心をもち、これからの生活をよりよくするために進んで実践しようとする。
(2)生活を工夫し、想像する能力	衣食住や家族の生活などについて見直し、課題を見付け、その解決を目指して、家庭生活をよりよくするために工夫し創造している。
(3)生活の技能	衣食住や家族の生活などについて必要な基礎的・基本的な技術を身に付けている。
(4)生活や技術についての知識・理解	衣食住や家族の生活などに関する基礎的・基本的な知識を身に付け、衣食住や家族の生活などについて理解している。

【評価の特色・方法・機会等】（3 学年共通）

(1) 評価の特色

家庭分野では、中学生としての自己の生活の自立を図り、子育てや心の安らぎなどの家庭の機能を理解するとともに、これからの生活を展望し、課題をもって主体的によりよい生活を工夫できる能力と態度の育成を目指しています。よって衣食住、家族の生活などに関する実践的・体験的な学習活動と問題解決的な学習を多く取り入れた学習内容が特徴となっています。

したがって、テストの点数だけで評価するのではなく、日々の授業の授業態度や生活を振り返り、改善しようとする問題意識、そして各自の課題を見付け、解決しようとする取り組む態度、製作品やレポートの発表等を総合しての評価となります。

(2) 評価の方法・機会等

(1)関心・意欲・態度	授業中の発言・学習への取組、提出物、ハンドノートやワークシートなど
(2)工夫・創造	ハンドノートやワークシート、製作物・レポートなど
(3)技能	実技テスト、製作物、ハンドノートやワークシートなど
(4)知識・理解	ハンドノートやワークシート、テストなど